

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP	学習成果
法哲学（70期～）	小林 和之	講義	2		1, 2, 3	1, 2, 5	2, 3, 4
授業概要 授業目的	<p>法哲学は日本国憲法等の既存の法律を前提とすることなく「あるべき法」について探求する。本講義では、抽象的な理論の解説は行なわない。外国人理論家の学説の記憶と説明は求めない。具体的な問題に即して何が「正しい」かを当事者意識を持って考える力を養うことを目標とする。</p> <p>そのため、講義中に数回レポートを書く時間を設ける予定である。</p>						
到達目標	<p>多様な観点から「正しさ」について考えられるようになること。例えば「上司から不正をごまかす文書の作成を命令されたら、自分はどうすべきか」を実際に起きた事例を踏まえて説明できるようになること。</p>						
回	学習内容						
1	公と私(1) 名前とは何か						
2	公と私(2) 氏名の自由						
3	公と私(3) 結婚とは何か						
4	私と私(1) 近代と責任原理						
5	新時代の責任原理						
6	文化と法 日本では正義より身内か						
7	事実とは何か 裁判と真実(1) 刑事裁判						
8	事実とは何か 裁判と真実(2) 民事裁判						
9	事実とは何か 裁判と真実(3) 近隣訴訟の教訓						
10	危険と法(1) 未知と表示						
11	危険と法(2) コミュニケーションの限界と民主主義						
12	死刑と正義(1) 冤罪の問題						
13	死刑と正義(2) 論理的思考を妨げるもの						
14	環境と正義 巨大な不確実性の中で						
15	民主主義再考						
予習内容 復習内容	<p>(予習) 講義のテーマを理解するために有益な事例は何かについて考える。</p> <p>(復習) 講義中に書いた感想・レポートで、自分に欠けていたものは何かについて考える。</p>						
教科書	なし						
成績評価	<p>原理的に考える力がどれだけ身についたか（100%）</p> <p>出席点(0%)</p> <p>なお、出席回数が10回に満たない場合は不合格とする。</p>						
実務経験							
その他 特記事項	<p>受講者の習得状況等によって進度を調整する。</p> <p>予定は変更の可能性はある。</p>						